Japanese Music Therapy Association　2003年10月31日発行

第６号

日本音楽療法学会ニュース

発　行　日本音楽療法学会
理事長　日野原重明　　副理事長　松井　紀和

事務局　〒105-0013 東京都港区浜松町１-20-８　浜松町一丁目ビル６階　TEL 03(5777)6220 FAX 03(5401)0337

第３回学術大会を終えて

大会長
村井　靖児

４月から突貫で準備した今年の第３回日本音楽療法学会学術大会が無事終わり、主催者一同胸を撫で下ろしています。参加して下さった会員の皆様方には心から感謝申しあげます。

今回は大会開催決定から開催まで５か月しかなかったため、講習会も口演発表も企画が間に合わず、変則的な１日間だけの大会にならざるを得ませんでした。そのため参加者は多くても500人位と予想していましたが、当日は1,000人を上回る方が参加して下さり、本当に有難く思っております。

今回の大会を引き受けたときにちょうど、与党国会議員有志による音楽療法推進議員連盟が立ち上がり、国家資格問題もドッキングさせたプログラムになりました。大会テーマを「社会が求める音楽療法」として、その中で国家資格の話題を一部取上げようと考えましたが、議員連盟の動きが途中から加速し、そちらと歩調を合わせる必要から、プログラムも目まぐるしく修正を迫られ、なかなか最終案内が会員の皆様のお手元にお届けできず、ご迷惑をお掛けしたことと思います。

しかし蓋を開けてみると、あれやこれやを付け加えたことが、却って効を奏し、参加した方からは、よい大会だったとお褒めの言葉をいただき、実行委員、組織委員一同大変喜んでおります。当日は快晴に恵まれ、日野原理事長、松井副理事長も朝から終日参加して下さり、午前のプログラムとしては、４つの教室を使ったポスターセッションと、「音楽療法士の専門性を考える」という題での公開討論会が行われ、その次に総会、昼休みを１時間半とって、その間にイベントとして、ドラムセッションのワークショップを挿みました。

午後のプログラムは、理事長挨拶に次いで、斎藤十朗音楽療法推進議員連盟会長による国家資格化に向けてのインビテーションスピーチ、それに続く大会長講演、そして最後はメインテーマの「社会が求める音楽療法」という題のシンポジウムを、松井副理事長の司会で行い、多くの会員に今回の大会の重みを刻印しました。

国家資格という話題があったため、音楽療法士の専門性について考えることができ、また社会が音楽療法士に何を求めているかについて、異なる立場からの意見を聞けたことは、本大会の大きな収穫だったと考えています。

第４回日本音楽療法学会学術大会開催に向けて－第一次案内

岸本　寿男　大会長

このたび第４回日本音楽療法学会学術大会の開催をお世話させていただくことになりました中国支部長の岸本です。今回大会長として開催に向けてのご挨拶と、大会のご案内をさせていただきますが、その責任の重さに身の引き締まる思いです。日時は2004年９月３日（金）に講習会を、９月４日（土）と５日（日）に学術大会を、いずれも倉敷市の川崎医療福祉大学キャンパスにて開催致します。実は川崎医療福祉大学の属する川崎学園は私の母校でもあり、総合講義「健康と音楽」の講師を４年前の開講以来受け持ち、支部事務局も置かせていただいているというつながりから、今回の大会事務局長を支部監査でもある川崎医療福祉大の上田 智教授にお願いし、大学を全面的に利用させていただけることになりました。会場のスペースには余裕がありますので、これまでの大会のように講習会、学術大会あわせて3,000人を越す参加者にお運びいただいても、対応できると思っています。大会準備委員会執行部はじめ中国支部の会員の総力を結集し、全国の会員の方々からのご協力ご指導をいただきながら、全力で準備を進めていく所存です。何卒よろしくお願い致します。そこで今回は第一次案内として大会に向けての準備状況と概略等についてご紹介したいと思います。

まずこれまでの日本音楽療法学会の学術大会にはそれぞれメインテーマが掲げられています。例えば第１回大会が、「新世紀にはばたく音楽療法」第２回が「日本の文化土壌と音楽療法」でした。そして本年10月に千葉で開催された第３回が「社会が求める音楽療法」となっていました。メインテーマはその大会全体のカラーを決定付けますので非常に大切なものです。第４回大会の開催を依頼された時点から、せっかく大会の内容を企画させていただけるチャンスがあるなら、斬新なテーマにしたい、そして今後の音楽療法界に何らかの貢献ができるものにしたいと思ってきました。そしていろいろな方のご意見も参考にさせていただき、最終的に次のようなタイトルに致しました。

－音楽療法の「音・音楽」の意味・役割を考える－

実はこのテーマは本学会や、統合前の臨床音楽療法協会やバイオミュージック学会の時代から私がずっと感じていた素朴な疑問からたどり着きました。それは実際に音楽療法のセッションの現場に居合わせた場合に「なぜこのセッションでは活き活きと音楽が響いてこないのだろう」とか「なぜその曲を選んだのか、その音楽の使い方や演奏法でいいのか、その技術でいいのか」また、「音楽療法で音楽の力がなさすぎる、音楽がなおざりにされてはいまいか」と感じることが少なからずあったからです。また逆に音楽がセラピストとクライエントをつなぐ単なる道具ではなく、自然にセッションの全体を包み込むように共有され、心に響きあうことを実感するという経験もするにつけ、その違いはどこにあるのだろうかという興味も増してきました。おそらく同様な思いを持つ方は多いのではないかと思います。

音や音楽の意味・役割について深く考えることは、一面では使う音楽自体の構造あるいは質や技術、感性レベルの問題について議論することと、他方で音楽と人との関係性からのアプローチ、つまり音・音楽の作用、力をどう効果に結びつけるかの方法論についても議論をする必要があると思います。単純なテーマのようで、これは音楽療法の本質的な課題だと改めて気付きました。言葉で説明したり論文化することが簡単ではないため、これまで避けられがちだったのかも知れませんが、この機会にこの「音・音楽」にフォーカスをあててじっくりと考えてみようではありませんか。

このメインテーマについてはシンポジウム等を開催しますが、これらテーマ企画の具体的な部分は、若尾 裕テーマ企画委員長のもとで現在練っております。適任のシンポジストの方々によって、様々な切り口で今後のわが国の音楽療法のあり方にインパクトを与える有意義な議論をお願いしたいと考えています。どのような問題提起がなされ議論されるか、楽しみです。どうか御期待下さい。このテーマについての要望演題も募集しますので、この際発表してみようと思われる方は是非ご検討の上、準備していただけると幸いです。

さらにこのテーマに関連した内容で外国からの招請講演も企画し、是非最新の流れを紹介していただきたいと考えています。現在 Colin Lee 先生と Brynjulf Stige 先生のお二人を予定していますが、一般論的な内容ではなく専門性の高い講演内容をお願いしています。

一般演題等の学術プログラムについては、松原秀樹研究・研修プログラム委員長のもとですすめますが、各領域でのレベルアップにつながるように査読委員会を組織し、厳正かつ公平な査読を経て採択するように致します。ただし一部の領域だけが多くなり、バランスが悪くなる傾向も生じ得ますので、各領域の枠をある程度決めて、応募の多い領域ではオリジナリティのある優秀演題から優先的に採択するなどしてさらなる質の向上を目指したいと考えています。今回のメインテーマのほか、現在注目されている他の課題についても、それぞれのテーマで要望演題として募集しますので、ふるってご応募ください。ある程度領域とテーマがまとまればミニシンポジウム等を企画することも考えています。

９月３日の講習会についても同じく松原委員長のもとで、本部と相談しつつ充実した内容の濃いものを企画中ですので御期待下さい。

会員交流会については、手塚 実交流会企画委員長のもとで、地方色も加えて暖かく思い出深いものになるように企画中です。会場に倉敷チボリ公園内の施設を候補として考えていますので、実現すればきっと楽しい内容が期待できると思います。

以上のように、大会執行部を中心に各種委員会で鋭意準備を進めつつありますので、大会内容の詳細は追ってお知らせします第二次案内をご覧いただけたら幸です。

また今後は中国支部のホームページと別に学術大会用のホームページを立ち上げて、そちらでも進捗状況を随時お知らせし、学会員のみならず、全国の音楽療法に関心のある方々にも情報を発信していきたいと思っています。

できるだけ多くの皆様に「第4回大会に来てよかった」と心から感じて帰っていただけるように、精一杯の準備をしたいと思いますので、皆様のご協力、ご指導を何卒よろしくお願い致します。では来年9月に、「白壁の街　倉敷」でお待ちしています。

【全国大会準備委員会執行部】

大　会　長：岸本寿男
副 大 会 長：手塚　実
企画担当実行委員長：若尾　裕
学術担当実行委員長：松原秀樹
事 務 局 長：上田　智
副事務局長：保野孝弘

【開催日時】

2004年9月3日（金）：講習会
9月4日（土）：学術大会第1日、理事会、評議員会、会員交流会
9月5日（日）：学術大会第2日、総会

【開催地】

倉敷市松島288、川崎医療福祉大学キャンパス等にて

【連絡先】

日本音楽療法学会中国支部事務局内
第4回日本音楽療法学会学術大会事務局

〒701-0193　岡山県倉敷市松島288
川崎医療福祉大学　保野研究室内
TEL＆FAX　086-463-9060
E-mail　jmta-cc@mw.kawasaki-m.ac.jp
H. P.　http://shuttle.kawasaki-m.ac.jp/jmta-cc/

『学会認定音楽療法士の認定規則の一部改訂をめぐって』

資格認定委員会
白倉　克之

1995年４月に念願の全国組織として全日本音楽療法連盟が発足し、2001年４月には二つの組織が実質的に統合される形で日本音楽療法学会が発足致しました。従来から音楽療法に強い関心を抱き続けてきた我々にとって同慶の極みとも言うべき事柄でした。欧米並みに音楽療法の科学的有効性を広く認識させると共に、より質の高い音楽療法サービスを学会として提供するために、一定水準以上の音楽療法の知識や技能、さらに臨床経験をもった方々を学会認定音楽療法士として認定し、その制度の定着を企図することが急務の一つであるとの共通の理解でありました。そのため全日本音楽療法連盟を経て日本音楽療法学会への統合と併行する形で、認定音楽療法士の資格認定制度を巡って様々な論議が繰り返されてきたことはご承知のことと存じます。

現実には既に音楽療法士としての幅広い実績と活動をされてこられた方々から、これから音楽療法士の資格取得を目指して勉強される方々までを、いかに合理的な選考基準を設定してより多くの方々にご満足いただけるかを、筒井末春委員長をはじめ委員会のメンバーの方々と種々の角度から繰り返し検討して参りました。一方では将来音楽療法士の国家資格化を念頭において、学会認定音楽療法士が第三者機関での判定で軒並みふるい落とされ、学会認定音楽療法士の鼎（かなえ）の軽重が問われることの無いようにある程度の水準を設定する必要があることは言うまでもありません。ともすると古くから自分なりの方式で実施してきたと、過去の実績に固執される方々に対しても、ややもすると非科学的で独りよがりの音楽療法を認定することはできず、いろいろと苦慮して参りました。

認定音楽療法士の学会認定制度発足以来、上述の実情に照らして認定規則も1996年の制定以後、二度の改訂がなされており、さらに本年４月に今回の改訂の運びとなりました。昨年の学術大会でその概要を説明いたしましたが、詳細については、資格認定委員会編集の認定規則を参照され熟知されることが望まれます。

主なポイントの骨子を簡単に整理すると、

①支部発足を機会に支部の独自性とその活性化を目的として、かねてより研修会・講習会・ワークショップなどの認定業務を支部に漸次移管して参りましたが、支部の問い合わせの多くは、教育機関が主催する研修会・講習会・ワークショップなどの取扱いをいかにすべきかであり、その点について学会本部で一括して結論を出して欲しいという要望でありました。それに関して本委員会及び理事会での検討の結果、大学、専門学校などの教育機関が主催する研修会・講習会・ワークショップなどは履修単位として本学会が認定し得る内容であれば別途認定するが、教育機関が単に短期的な研修会・講習会（カルチャースクールなども含む）を開催するものであれば認定資格のためのポイントとしては認めないという結論と致しました。

②現行のいわゆる“スーパービジョン”について、スーパーバイザー・スーパーバイジーのポイントの規定を明確にすると同時に、スーパーバイザーの資格に関する規定を盛り込み、また公開スーパービジョンのフロアーからの参加者についてのポイントについても明記致しました。

③また曖昧な規定であった臨床経験の開始年月日について、取得ポイントとは切り離して開始年月日に関する条項を明確にすると共に、履修単位として認められる科目についても申請者の便を考慮して具体的に明記し、音楽療法士（補）に関する規定も附則に詳細に示しました。

以上、改訂の概要について簡単に説明しましたが、それ以外に留意していただきたいのは、申請者は将来の国家資格化を念頭に、音楽療法に必要な音楽領域以外の各領域での履修ポイントを満遍なく取得されることが肝要であり、また症例リポートの作成にあたっては単なる臨床経過の羅列におわることなく、音楽療法という観点から広く合理的で科学的な内容になっているか否かを十分に推敲した上で作成することを心掛けるということです。

研修会・講習会・ワークショップ等の主催者の方々についても、十分にその点について留意されて研修会・講習会等の内容を吟味されると共に、ポイント認定の基本時間は90分間が１コマになっているので、受講者にとって極力不都合な時間配分にならないよう、時間的な配慮も併せてお願いする次第です。

北海道支部 ―― 近　況 ――

郷久　鉞二　支部長代行

支部長の栗林文雄先生が、名古屋音楽大学へ行かれて、本年６月１日から支部選挙施行後の来年５月までその代行を行っている。

北海道でも各地で、いろいろな団体が音楽療法活動を活発に行っており、様々なニーズが支部に求められている。本会の特徴として、本部に先駆けて最初から、規約で役員は会員相互の選挙で選出されることになっており、今はその選挙管理委員会を立ち上げて準備しているところである。

本年度の支部研修会は、第３回支部研修会が５月に既に行われ、第４回は11月に行われる。貴重な臨床経験による研究発表が、毎回行われ、十分にディスカッションされる場として利用されている。特別講演、教育講演も音楽療法士にとって、必要な知識を獲得する機会として非常に役に立っているものと自負している。

現在のところ支部会員数は190名余りで、学会認定音楽療法士が30名弱である。認定を取得すべき研修中の会員も多く、今後増加が予想されている。音楽療法士が国家資格にならないかと、みんな固唾を飲んで見守っている状態であるが、どうなっても活動は続けなければならないので日々研鑽の毎日である。

いずれにしても昨年の５月に発足したばかりの北海道支部が、今後発展していく道のりはけわしいものであろう。来年５月に選挙で選ばれた新しい体制でますます発展して行くことを祈っている。

卐　卐　卐　卐　卐　卐　卐　卐　卐

東北支部 ―― 2003年秋昨今 ――

遠藤　安彦　支部長

皆さんコンニチワ！　こちら東北支部です。勤務先の大学が、仙台の北部“山の手”にあって、今日は特に快晴の青空を背に、カラフルな木々が競い合っている…といった感じでしょうか。いい季節を迎えている東北です。そしてこの後、一気に寒い冬へと変身していくのですねぇ！

ところで東北支部は、９月６・７日に第３回支部学術大会を、宮城学院女子大学を会場に開催致しました。宮城県が担当ということで須佐涼子先生が実行委員長を務められ、支部の智田邦徳事務局長（岩手）との春先からの見事な連携プレイで、準備・前夜!?、本番と後始末と、つつがなくプログラムを遂行されました。

二日目の「研究発表」について、当初はもう少し多くの参加希望を予想しておりましたが、僅かのお断りで14件の発表にとどまりました。多ければポスター云々に……と企画はしてみたのですが、その心配は不要でした。しかし、発表された14件は、２～３件の書き直しをお願いしたものも含めて、重要且つ時宜を得た内容のものが多く、各会場とともに発表者とフロアとの熱のこもった活発なやりとりが交わされておりました。

一日目の学術大会基本テーマの決定については、他に属している「日本音楽学会」や「全日本音楽教育研究会」の全国大会を仙台で開催した時も同じですが、非常に大切でありながらまとめたり結論を導いたりすることが如何に大変か、これは東北支部だけが大変なのでなく、当学会の新しい支部（運営）にとって、毎年必ずやって来る“大型台風”ですね。今回のテーマは「音楽療法の原点」～治療者に求められるもの～

今回の第１回目の支部役員会では、『意見を述べ合うのが楽しい！』とか『皆でまとめていく過程が面白い』とか、各役員が日ごろ思っている多くの問題点が提案された上で、『じゃあ、どうすれば良いか』というように、常に建設的な議論の進め方で運営され、お陰で大会テーマもすんなりと『支部として、基本を再度踏まえよう』、『講師は地元で賄える』となった次第。

①音楽について、②精神医療とは、③発達心理学と、④認知心理学と、福祉のことも気にはなりましたが、タイムテーブルを企画する段階で４件あればということで落ち着き、それぞれに対する〈講師〉の手当ても提案が了承されて個別折衝まで進み、全てが了承で更に特別講師に計画した二俣泉先生の「応用行動分析学」も、日程 OK ということになって順風満帆の船出となったのです。

〔閑話休題〕

僕は専攻作曲で、ソルフェージュと音楽理論、それに即興を〈大学の音楽科〉で教育研究すること30年。東京にいた若い頃は、特に声楽の伴奏を多く担当する伴奏ピアニストとして忙しい毎日を送っていた“演奏系”なので、先日の松戸／聖徳大学での国立音楽大学理事長の言われた『目立ちたがりやの音楽大学で、サーヴィスに徹する教育指導が可能か？！』は、自分にとって将に“関が原”！

そんななか支部長をお引き受けしていることへの苦痛が増す一方ですが、学会の第一人者や有資格者がその役を務めるのが当

然としながら、もう一方で学会の運営と発展のためにサーヴィス出来るサポーター役に徹することが支部長の仕事でもある、と割り切って、1年の任期から2年の任期となっての今回の初選挙で再選されて、快諾をしてしまったのです。

でも芯は、作曲した〜い、ピアノ弾きた〜い、なのです。

ある時、躁鬱病の知り合いが電話をかけてよこしました。『音楽が聴きたくって、歌が歌いたくって、音楽の話がしたくって、自宅のマンションはピアノを弾くと五月蠅(うるさ)いっていうから、ホール借りようか？！』鬱から戻る時期で、あまり躁にならないうちに音楽を楽しみたいというこの知り合いの家に、約3時間滞在。何がしかの効果はあったのかしらん、このことも、自分が音楽療法に興味を持つ契機となったことは間違いなさそうだ。

ちっとも〔閑話休題〕にはなりませんでしたね（笑）。余計なことを言えるわけがないですよね。こんなヒトが支部長を務めようというのですから、つき合わなければならない事務局長始め支部役員の皆様方の苦労は如何ばかりか、と他の支部の役員の方々は是非同情してあげて下さい。

大学再編で揺れている国・公立。自分の県のことだけでは済まなくなったのは、何も大学だけではないのです。旧来地元の国立大学を中心に行われてきた各種の教育・研究は、更に広い範囲に拡大、計画では「州」という話も出ているようですが、学会の東北支部としての活動については、東北6県の立地、交通手段、交流等々から、支部活動の最もやりにくい土地と言われ続けてきていることは、多くの方が御存知のことでしょう。

支部役員会を開催するに当たって、東北6県のどこかに集まるためには必ず時間と経費を浪する委員が半数です。そのために支部役員会の開催が困難になり、支部の運営にも少なからず支障が出るというもの。

デジタル大嫌いのアナログ派人間であるこの支部長は、大学の研究室にパソコンを設置していない、現世ではどうしようもない古い人間で、事務局長・役員始め多くの会員に迷惑をかけているようです。今や在宅勤務の時代だというのに、漸く携帯電話とメールを使えるようになって喜んではおりますが、パソコンまではチョット……。

そんな訳で、作曲の楽譜は全て手書きで、これも顰蹙(ひんしゅく)を買っているのです。皆が便利だといっているパソコンでの作曲や特に編曲については、成る程と思うところがあります。自宅には庭があり、裏には畑があります。何が言いたいかはもう御存知！そう、超自然派です。相変わらず（古い）一眼レフのカメラを愛好し、デヂカメは便利だと知ってはいても、自分の老後を自分の生き方で生きたい！

あっ、支部の話は何処へ？！、すみませんでした。すっかり個人のことばかり話してしまいました。こんな支部長を何故か役員の皆さんは、大事にしてくれております。いつ蹴り飛ばされるのかの心配は差し置いて、兎にかく今は支部の運営を軌道に乗せることに尽力を惜しまず、支部会員の研究と実践の場の拡大に力を注ぎたいと思っていることを告げて、現状報告にしたいと思います。

卍　卍　卍　卍　卍　卍　卍　卍　卍

関東支部 ―― 近　況 ――

宍戸幽香里　事務局長

関東支部は2002年2月11日に結成され、現在は2,200名以上の大所帯となりました。支部長村井靖児、副支部長村林信行、事務局長宍戸幽香里、事務局次長郡司正樹以下23名の地方幹事と2名の監事を中心に、支部活動の円滑化と積極化を目的に現在は広報委員会、研修委員会の充実を重視しています。幹事の多くは今後の学会や支部活動を担う若い人で色々な活動にその力を発揮しています。10月24、25日の支部大会には多くの方が参加下さり、ありがとうございました。

卍　卍　卍　卍　卍　卍　卍　卍　卍

信越・北陸支部 ―― 近　況 ――

北本　福美　支部長

信越・北陸支部では、本年5月25日に、第1回の支部総会・学術集会が櫻井浩治会長のもと新潟で開催され、特別講演は「私と音楽療法（これからの認定制度の在り方を含む）」と題して、白倉克之先生（日本音楽療法学会常任理事・元国立久里浜病院院長）が講演され、認定資格を受けるものの心構えを含めたこれからの音楽療法界のあるべき姿の紹介がなされた。教育講演は「私の音楽療法の基本理念と実際」と題し、地元出身の廣川恵理先生（カンザス大学音楽療法科博士課程在学中）が講演された。留学された先での厳しさや学びのご苦労など、音楽療法の先進国アメリカにおいてでも、その有効性を他職種に理解してもらうにはかなりの努力が必要という現実を拝聴した。また、支部内の登録団体の紹介を兼ねて、「いかにして音楽療法を学ぶか－支部内の音楽療法研修事情と問題点」という情報交換の場が持たれ、各団体の設立経緯・特色・活動報告などがなされた。

今回は、プロとしての音楽療法士とはという問い掛けが各会員間で受け止められる貴重な機会となったと感じられる。学会認定

を得ることとプロとしての仕事が十分できること、他職種から専門性を認められることはイコールではないことは自明の理ではあるが、音楽療法のプロとして身につけるべき技術や技法を問われた時、応えられるものを獲得していきたいと再認された。現在、7登録団体が存在しているが、いずれもこれまで地道な活動を続けてきた団体であり、学会の下位組織として連携を図りつつ、各団体の特色を損じない活動継続が期待されている。

なお、次年度の予定としては、2004年6月13日（日）に金沢で、第2回支部総会・学術集会が催される。また、公開講演として、山中康裕先生（京都大学大学院教授）に音楽と人間との関わりをテーマにしたお話をお願いしている。発表演題も募集（発表は支部会員に限る）する予定なので、支部会員の皆様においては心づもりを頂きたい。詳細は、年内に支部会員宛のニュースレターで紹介する。

東海支部 ―― 支部役員選挙とその背景 ――

都築　裕治　支部長

◆さぁ、いよいよ東海支部の役員選挙（2003/12未締切り・郵送投票）。役員を選挙で選ぶということは、民主的な組織の基本であり、これは支部結成準備段階からの懸案事項でした。

◆東海支部の結成は、学会本部よりの「支部結成ご協力のお願い」('01/04）という学会役員あて文書をもとに、当地の学会役員他でまずは“東海支部設立準備委員会”を立ち上げ、結成総会に向けて動き始めました。◆その準備委員会では、会員一人ひとりが尊重される組織であるようにといった基本が確認され、そのもとに支部の意義や会則案等が検討されて行きました。◆東海支部会則の中に『役員の任期は2年とし、再任はさまたげない、ただし、再任は3期以内とする。』という“役員任期の制限”が書かれていますが、これは会員を尊重し皆で支部運営をやって行こうという考え方が反映されたものです。皆での活動を促すためには、役員が権力者に変質しないような新陳代謝の仕組みを工夫しておくことも必要でしょう。◆余談ですが、支部の役員会の中ではお互いを「さん」付けで呼び合うこととしています。小さなことですが、これもメンバーが対等に議論しやすいようにという配慮からです。

◆この東海支部は、2001年12月の支部設立総会での支部規約・支部役員の承認等を経て、2002年1月の本部理事会にて正式に認可されました。しかし、名実共に支部会員の声が反映された支部となるためには、先に述べたように出来るだけ早く選挙を実施する体制を作らなければならず、その実施を目指してきましたが、この度東海支部役員選挙規定が支部会員の書面表決により承認され、選挙を実施するはこびとなりました。支部全地区と県別地区の2通りの投票により、それぞれ10名、計20名を選ぶこととなります。

◆ところで、東海支部の役員は皆さん実践現場を持っています。日々「現場」で汗を流し、クライエントと一番近いところから支部を運営しているこの支部の特徴が、今後も生かされて行くことを願っています。◆次期の東海支部総会・研修会は2004年3月13日（土)、名古屋芸術大学にて行われ、ここで選挙により選ばれた支部の新役員が誕生する予定です。

近畿支部 ―― 近　況 ――

大前　哲彦　事務局長

近畿支部は第2回日本音楽療法学会学術大会を準備するために発足し、支部の学術大会もそのプレ集会として開催してきた。支部の各委員会も実行委員会の各部門を分担するものとして開催してきた。その任をようやく終えた4月以降において、新たに「支部会員の会員による会員のための活動」に一歩を踏み出すべく、支部会員に対するアンケート調査などに取り組んできた。

会員アンケートでは、46.1%が無報酬で音楽療法をやっており、有資格者と資格未取得者に分けたクロス集計においても有意差が検出されないという深刻な実態が明らかになった。詳しくは『近畿音楽療法学会誌』Vol.3（2004. 3刊行）を参照されたい。

また、大阪の中心部のビルの4階に支部事務所を設け、電子機器を設置して会員が研究発表用のビデオ編集ができるように整備を進めている。さらに支部の役員・委員メーリングリストは昨年度から運用してきたが、今年度から会員メーリングリストを構築し、会員間の情報交換に生かそうとしているが、現段階での登録は86人である。学会認定の講習会は、このメーリングリストに報告することを義務づけ、支部会員に公開して開催するようにしている。

研究誌編集委員会は『近畿音楽療法学会誌』を2号まで刊行したように軌道に乗ってきたが、大会の査読やプログラム委員会の仕事が加わり、加重になっているので補強を考えなければいけない。教育研修委員会も支部の講習会企画に加えて、支部内の講習会に対する認定審査で加重気味な活動になっているが、公平な審査のためのルール作りなどを着実に進めてきたといえよう。倫理委員会は全国大会において研究発表の倫理審査の方式を確立するなど、全国に問題提起をしてきた。近畿の第2回大会にお

ける倫理をテーマにシンポジュウムを開催するなど、活動の課題の方法は明確になってきているといえよう。制度化委員会は大会時のよろず相談室の開設と関係団体への臨席依頼に特化したものながら活動の定着は見られる。しかし、課題の大きさに対応した補強が求められているといえよう。課題研究委員会は委員の多忙さもあり、全国大会における全体会企画で息切れした感がある。活動の方向は明確になっているので委員を補強して活動の再開をめざしている。その他（MT インターネット）については、支部事務所に設置した機器の有効活用を含めてメディア委員会などを本格的に立ち上げていくことになった。

9月に第3回近畿学術大会（於、大阪音楽大学）を350人の参加を得て開催したが、第4回は奈良教育大学（福井一大会長）を会場にして2004年9月18〜19日に開催することになっている。

（支部連絡先：561-8555豊中市庄内幸町１－１－８、大阪音楽大学内、TEL：06-6445-1399、FAX：06-6333-0286、E-mail：jmtak@guitar.ocn.ne.jp）

中国支部 ―― 近　況 ――

上田　　智　事務局

中国支部は広島、岡山、島根、山口および鳥取の5県から成り、各県持ち回りで日本音楽療法学会支部活動を行っており、今年は第3回支部総会が島根県のお世話で8月2、3日に松江市で開催された。第1日目の午後は講習会で岸本寿男支部長による「日本独自の音楽療法について」の講演と松原秀樹先生の「心理療法－行動療法」の講演があり、講演後それぞれ試験が実施された。夕方から全国的に有名な松江の水郷祭の花火大会を宍道湖畔のホテルのロビーから堪能することができた。大会第2日目は総会後陽（みなみ）信孝先生の「八重子のハミング」と題した感動的講演があった。午後は郷土芸能のご披露があり一般演題23の発表とポスター17演題の発表があった。

現在支部事務局は3名のパート女性職員による事務処理作業が行われているが、支部事務局運営で最大の問題は会員相互の連絡のための郵送料金が事務局費全体の約40％を占めており、事務局経費削減の問題は最大の課題である。現在学会支部ホームページを開設しており、将来はインターネットによる会員相互の連絡を目指して会員間のインターネット普及の努力をしており、会員の皆様のご協力に期待している。

来年（2004年）9月3、4、5日第4回日本音楽療法学会学術大会を岡山県倉敷市で開催予定である。皆様の全国学会へのご参加をお待ち申し上げる。

九州・沖縄支部 ―― 近　況 ――

斉藤　　雅　支部長

2002年に、福岡、宮崎、熊本、沖縄、大分の各県にあった主要な研究会が中心となり、九州・沖縄支部をスタートした。その後、鹿児島にも県支部としての研究会が発足し、最近には、佐賀でも結成の動きがみられる。

九州・沖縄支部としては、これまでに2回の総会と3回の講習会を行っている。講習会は、各県の回り持ちとして、福岡、宮崎、熊本で開催され、各回とも100名余の会員が参加した。講習会の内容にはそれぞれの研究会の特色が組み込まれ、音楽療法の各技法や、内容の充実についての講義とともに、関連領域への理解を深めるための講座も行った。今後は、来年度2004年7月に大分で講習会を行う。

また、今年度、支部主催の学術大会を2004年2月28・29日の両日、福岡で行う予定であるが、これは支部において発表の機会を提供するものである。発表・質疑の時間も長くとり、児童、高齢者、成人の分野別にコメンテーターの助言も得られる形式で行う予定で、内容の深められる大会になるものと期待している。十分に吟味された発表を募集している。

九州・沖縄は、西日本芸術療法学会もあり、以前から音楽療法の研究を行われており、多数の認定音楽療法士も活躍はしているが、常勤の施設は少ないのが現状で、養成校の学生などがきちんとした指導を受けることの出来る実習施設はわずかである。まだまだ、社会的な認知度は低いといえる。将来的に音楽療法が市民権を得るためには、現在行われている音楽療法の質を高めるとともに、会員それぞれの地道な研究、真摯な姿勢が問われているといえる。支部としても、その支援を図ることが出来るよう、今後とも努力したい。

学会事務局からのお知らせ

■ 第２回認定音楽療法士（補）認定試験問題解説集が発行されました。

2001年に発表された「カリキュラムガイドライン'01」適用の音楽療法コース卒業生を対象に、2003年１月19日、第２回の認定試験が実施されましたが、この度この試験問題の解答と解説集が発行されました。昨年度（2003年１月19日）の受験者の方には事務局からお送りしましたが、それ以外の方で入手希望の方は200円切手を貼った返信用封筒（Ｂ５サイズ、必ず宛先を書いてください）と1,000円分の定額為替を同封して、学会事務局へお申し込みください。

■「資格認定規則（申請書）」および「資格更新規則（申請書）」の取り寄せについて

270円切手を貼った返信用封筒（Ａ４サイズ、必ず宛先を書いてください）と500円分の定額為替を同封して、学会事務局へお申し込みください。

＊「音楽療法士認定規則」の配布は会員のみが対象ですので非会員の方は入会手続き（会員番号登録）完了後の取り寄せとなります。

＊ 資格更新の対象の方には当該年度の５月上旬、全員に送付していますので取り寄せは不要ですが、早く入用の方は上記認定規則と同じ方法でお取り寄せ下さい。

なお、各規則の内容に関するご質問は、事務局では判断しかねますのでご遠慮ください。

■「カリキュラムガイドライン01」の取り寄せについて

120円切手を貼った返信用封筒（Ｂ５サイズ、必ず宛先を書いてください）を同封して、学会事務局へお申し込みください。

■ 会費（年会費）納入のお願い

年会費は年度内にお納めいただきますようお願いします。昨2002年度分未納の方は早目にお納めください。

正会員	10,000円	学生会員	6,000円
購読会員	6,000円	賛助会員	50,000円／１口

振込先　郵便振替口座　○ 加入者名：日本音楽療法学会
○ 口座番号：00120-９-657711

■［訂正とお詫び］

ニュース第５号７ページ下の2002年度認定校の校名に誤りがありましたので、お詫びして訂正します。

誤		正
清水女子大学新戸町キャンパス	→	活水女子大学新戸町キャンパス

■ 会員名簿の発行について

今年の秋の発行を目指して準備をしておりますが、作業が遅れています。申し訳ありませんが、2004年１月頃の発行となることをご了承ください。

■ 東芝 EMI ㈱発売のミュージックセラピー CD について

監修：田戸悠実恵として上記 CD が発売され、その宣伝パンフレットに日本音楽療法学会推奨と印刷されていますが、これは事実無根の記載です。

当学会はこの CD を推奨した事実のないことをお知らせします。